

代表者	岩手大学農学部 丹羽太左衛門	山梨県畜産試験場
	茨城県養豚指導所	長野県 "
	群馬県畜産試験場	東京都 "
	埼玉県 "	静岡県養豚試験場
	千葉県 "	日本科学飼料協会研究所

## 非ステロイド剤AIMAXの経口投与と ホルモン剤併用による豚の発情調整に関する試験 (第2報)

菅原兼太郎 大橋昭也 加藤己之吉

### 1. 目的

さきに、非ステロイド剤AIMAXの経口投与による豚の発情調整に関する試験の結果について、第1報として報告したとおり、これにより豚の発情を調整して繁殖をはかることが実用的であると認められたが、最近、AIMAXの経口投与後ホルモン剤を併用した試験成績が、諸外国で発表されているので、その効果を検討するため、前報のとおりグループ研究として実施した。

### 2. 材料ならびに方法

#### (1) 供試薬剤、投与量、投与方法

経口投与の薬剤はAIMAXで、その投与量と投与方法は、ともに前回のとおりで、経口投与終了後のホルモン剤は、PMS、HCGを使用した。

#### (2) 供試豚

供試豚は未経産豚3頭で、品種、生年月日、体重は第1表のとおりである。

第1表 供試豚

No	品種	生年月日	産歴	体重
1	W	4 3.1 2 6	未経産	1 7 0 kg
2	"	"	"	1 7 0 "
3	Y	4 3.3.2 7	"	1 5 0 "

#### (3) 試験方法

AIMAXの経口投与終了後におけるホルモン剤の併用の方法として、第2表の要領により3区分に分け、それぞれの量の皮下注射を実施した。

第2表 実施要領

区分	24時間後	96~120時間以内
I区分	PMS 1.000 単位	HCG 500 単位
II区分	" 750	" 500
III区分	" 500	" 500

## 3. 試験の結果

上記の方法により実施した試験成績は、第3表のとおりで、グループ研究の成績を前記3区分にまとめると第4表、第5表および第6表のとおりである。

第3表 当場の試験成績

供試豚				投薬前の発情状況				投薬(AIMAX)		
№	品種	体重	産歴	開始月日	終了月日	許容日数	強さ	開始月日	終了月日	1日量 期間
1	W	kg 170.	未	43.12.21	43.12.24	3.0	++	44.1.6	44.1.15	10g 10日
2	"	170	"	44.1.8	44.1.10	3.0	+++	44.1.23	44.2.1	" "
3	Y	150	"	44.1.14	44.1.16	2.5	+++	44.1.29	44.2.7	" "

ホルモン剤注射			投薬後状況		受胎試験成績
№	PMS	HCG	発情	種付	
1	44.1.16 1.000	44.1.19 500	44.1.20	44.1.21	+
2	44.2.2 750	44.2.6 500	44.2.7	44.2.8	+
3	44.2.8 1.000	44.2.12 500	44.2.13	44.2.14	+

第4表 グループ研究成績 I

供試豚		AIMAX投与		PMS	HCG	発情の強さ		AIMAX投与終了後雄許容までの日数	受胎試験成績
№	品種産歴	日量	期間	注射	注射	投与前	投与後		
1	L.未	10g	10日	単位 1000	単位 500	++	+++	5日	+
2	Y."	"	"	"	"	++	+++	6	+

3	L.未	10 g	20日	1000	500			6日	+
4	L. #	"	20	"	"	++	++	5	-
5	L. #	"	"	"	"	++	++	6	+
6	W. #	15	15	"	"	+++	+++	5	+
7	L. 1	"	"	"	"	+++	+++	5	+
8	Y. 4	"	"	"	"	+++	++	5	+
9	W. 3	"	"	"	"	+++	+++	4	-
10	W. 1	"	"	"	"	+++	++	6	+
11	W. 4	"	"	"	"	++	+++	5	+
12	L. 3	"	20	"	"	+++	+++	5	+

第5表 グループ研究成績 II

No	供試豚 品種産歴	AIMAX投与		PMS 注 射	HCG 注 射	発情の強さ		AIMAX投与終 了後推許容までの 日数	受胎試験成績
		日量	期間			投与前	投与後		
13	L.未	10 g	10日	750	500	+++	+++	6日	+
14	L. #	"	20	"	"	++	++	4	+
15	L. 6	15	15	"	"	++	+++	5	+
16	L. 1	"	"	"	"		+++	6	-
17	L. 1	20	"	"	"		++	4	+
18	L. 9	15	20	"	"	+++	+++	5	+

第6表 グループ研究成績 III

19	W.未	10	20	500	500	++	++	5	-
20	. 2	20	15	"	"			5	+

すなわち、第4表のとおりAIMAXを投与後PMS 1,000単位、HCG 500単位を注射した例では、発情の強さは投与前と投与後ではほとんど差がなく、AIMAX投与終了後推許容までの日数では、4日～6日で、AIMAX単独の場合よりはやや早く、しかも7日以後のものは見られなかった。

また、受胎成績の結果は、12頭中10頭受胎で、受胎率は83.3%であった。

次に、第5表のとおりAiMAXを投与終了後PMS750単位、HCG500単位を注射した例でも、発情の強さ、雄許容までの日数、受胎成績の結果に差がなかった。

なお、第6表のPMS、HCG各500単位の試験では、例数が少なく結果を云々するには今後の追試が必要と思われる。

以上の成績の結果から、AiMAXの経口投与後PMS、HCGを注射する方法は、有効と思われるが、今後更に例数を加えて検討の予定である。

#### 4. 要 約

豚の発情調整を目的として非ステロイド剤(iCi33828 AiMAX)の経口投与後、PMS、HCGの注射併用は、AiMAX単独使用の場合よりも効果的で、とくに投与終了後4日~6日に集中的に発情があらわれた。

なお、PMS、HCGの注射量については、今回の成績では差が認められなかったが、今後更に例数を加えて検討する予定である。